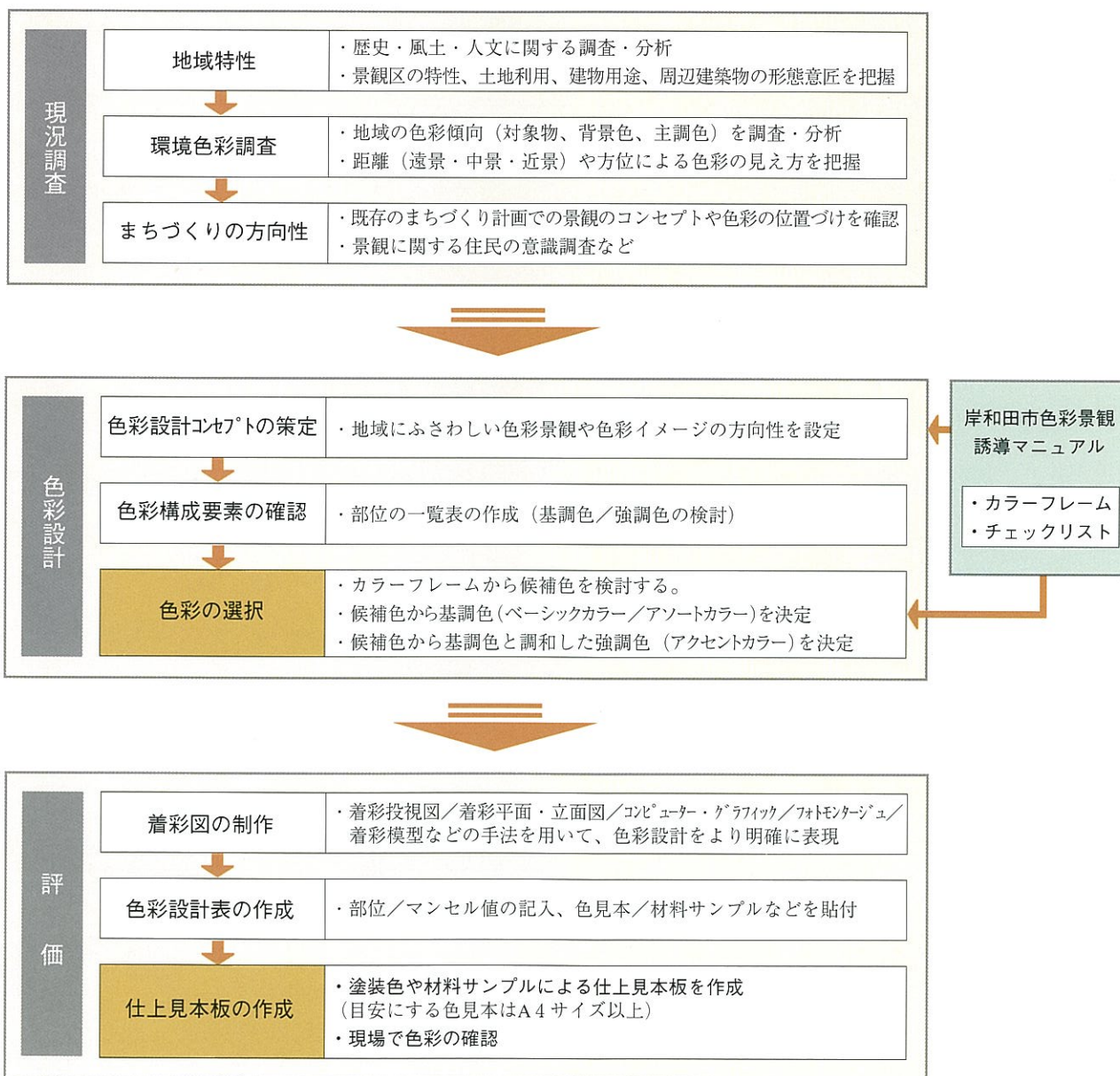


建築物や構造物の新築、増築、改築を行う場合、地域の特性を活かし、景観としてのまとまりを考慮した色彩計画を行う必要があります。

対象物によっては実施の手続きなどが異なりますが、本マニュアルの「カラーフレーム」を色彩決定の目安とした基本プロセスにもとづいて、各対象物の色彩計画を行って下さい。

「チェックリスト」は色彩設計のための基本的検討項目としてとりまとめたもので、全ての地区に均等に検討する必要はありませんが、地区の特性や色彩計画のコンセプトに合わせて重要度のランクづけを行い、その順に色彩を検討してください。また、実施にあたって市への届出図書としてだけでなく、よりよい色彩設計を行っていくための重要ポイントとして「カラーフレーム」と共に活用してください。

色彩計画の基本プロセス



色彩計画チェックリスト

項目	概要
景観要素の色彩を整理する	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩の面積効果を考慮し、誘目性の順位づけを行う ・大きな面積を占める基調色は、基本的に低彩度色を使用する
周辺景観との調和や連続性を考慮する	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなみの色彩は類似調和、色相調和、トーン調和を基本とする ・隣接する建物相互の色の差は小さくし、連続性をつくりだす ・舗装材やストリートファニチュアの色調をそろえ連続性をつくりだす
自然の色に配慮する	<ul style="list-style-type: none"> ・人工物の色彩は自然の緑の鮮やかさを越えない範囲とする
まちなみから突出しないように工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの色数の使用はできるだけ避ける ・黄緑～赤紫系を使用する場合は、低彩度色であっても十分に注意する ・極端に暗い色や、明るい色は十分に注意する
色彩イメージを活かす	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりのコンセプトや景観イメージと整合性のある色を選ぶ ・地区のイメージやテーマカラーをアクセントとして小面積に使用する
素材の色を活かす	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく自然の材料を利用する ・地場の素材を利用して地域の個性をつくる ・素材は素材のままで使用する ・レンガ等の自然素材と同色の人工色の使用には十分注意する
地域に蓄積された色彩を活かす	<ul style="list-style-type: none"> ・地場で伝統的に使われてきた色彩、配色、素材の組み合わせなどを活用する ・その地域を特徴づけている色彩を活かす
形態・素材にあった色使いをする	<ul style="list-style-type: none"> ・形態を無視した色分けはしない ・素材の特長をいかした色使いとする
新しい色彩景観形成を考慮する	<ul style="list-style-type: none"> ・既成概念にとらわれすぎないで、創造的な色使いをする ・新しい色彩表現の可能性を追求する ・但し、周辺環境との調和に十分配慮して慎重に取り扱う
経年変化に配慮する	<ul style="list-style-type: none"> ・飽きのこない色を使用する ・変色、汚れの少ない色彩とする
まちのにぎわいの演出に工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の低層部には、にぎわいを演出する色使いも考慮する ・季節感を彩る祭りの色彩を演出する ・にぎわいをつくるための流行色はとりかえやすい部分に使用する ・具象的なイラストによる表現はできるだけ避ける
騒色を取り除く	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなみから突出する屋外広告物、ストリートファニチュア等の高彩度色は取り除く